

富田愛さん(みんなの家@ふくしま)

■ 活動内容

福島市で「[みんなの家@ふくしま](#)」(運営:[ビーンズふくしま](#))の事業長をしています。ここでは、福島で子育て中のママを中心に、地域の方々が気軽に集まれる場所を提供しています。誰でも自由に参加できる場の他に、様々な方に参加してもらえよう、避難先から戻られた親子を対象とした「ママカフェMini」や、パパたちを対象とした交流会も行っています。

■ 活動を始めたきっかけ

私は元々保育士で、震災後は、平成23年5月から郡山市の「[プチマン](#)」という子育て支援団体に活動していました。その後、県外に避難された親子の支援が県の委託事業で始まることで、平成24年6月から事業受託者の「ビーンズふくしま」に移りました。県外に避難された親子を支援する中で、避難されたママの「福島に戻る際、避難しなかった方々との関係に悩む。」という声を聞き、なかなか相談できる場がないことに気づきました。そのため、ママたちが気軽に話せる場の「ママカフェ」事業を提案し、平成25年6月から県内各地で開催してもらっています。さらに、平成27年3月からは、福島市内の一軒家を借りて、いつでも気軽に集える「みんなの家」事業を始めました。



「住民の皆さんはとても親切です。だんごさしなど伝統行事を教えていただいたり、ハロウィンなどの行事にご協力いただいています。」と近隣住民のやさしさに感謝する富田さん



住宅街の借家を活用した施設(左)と、玄関に設置されているカラフルな看板(上)

復興のパイオニア（復興女子編）

■ 活動を通じて思うこと

ママたちが気軽に話し合える場ができたことで、悩みや経験を共有し、不安解消につながっています。

例えば、以前は放射線に関する情報が乏しく、放射線に対する不安を誰に聞いてよいか分からない状況でした。しかし、最近では身近に食物の放射線量を測定できる環境が整ってきており、普段の食べ物を測定するママもいます。みんなの家に集まったママ同士で測定結果の情報などを共有して、お互いの不安の解消につながったこともありました。

また、震災後に妊娠した方が、妊娠したことで避難すべきか悩まれた際に、避難先から戻られたママたちによる避難時の経験談がその方に役立ったこともありました。

福島のパイオニアママたちは、避難を選択したママや、避難を選択しなかったママなど、それぞれ異なる経験をしています。「みんなの家」の活動を通じてママたちが気軽に話し合うことで、お互いが誤解していた点に気づいたり、自分と違う選択をした方と互いを認め合う雰囲気ができることは、活動して良かったと思うことの一つです。活動を通じて、多くの福島県の方と触れ合い、良い人ばかりだと実感しました。

平成28年度、復興庁は、「『心の復興』事業」を通じ、「みんなの家@ふくしま」の活動を支援させていただくこととしています。



アウトホームな雰囲気
でゆつくり時間を過ごすこ
とができる家の中

子どもたちが遊んでい
る間、ママ同士でおしゃ
べりしたり相談したりと、
様々な利用が可能



宮崎県のママたちから福島県のママたちに向けて応援メッセージとともに贈られた折り紙のバラ